

平成 20 年（2008 年）告示

学習指導要領

中学校数学

Contents

中学校 各教科等の授業時数	1
中学校数学科 改訂のポイント	2
中学校数学 内容区分・項目の新旧対照	3
中学校数学 学習指導要領 全文	9
小学校算数科の内容について（改訂案）	17
中学校総則 改訂のポイント	19
中学校総則 全文	20
小・中学校 総合的な学習の時間 改訂のポイント	24

※この冊子は、平成 20 年（2008 年）3 月 28 日に文部科学省が告示した学習指導要領，その他関係資料をもとに作成しています。最新の情報につきましては，下記ホームページ等をご参照ください。

・文部科学省 新しい学習指導要領 ホームページ (http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/)

<http://www.shinko-keirin.co.jp/>

啓林館

【中学校 各教科等の授業時数】

平成 20 年 3 月 28 日告示より

学校教育法施行規則の一部改正後

区 分	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	
各 教 科 の 授 業 時 数	国 語	140	140	105
	社 会	105	105	140
	数 学	140	105	140
	理 科	105	140	140
	音 楽	45	35	35
	美 術	45	35	35
	保 健 体 育	105	105	105
	技 術 ・ 家 庭	70	70	35
	外 国 語	140	140	140
道 徳 の 授 業 時 数	35	35	35	
総 合 的 な 学 習 の 時 間 の 授 業 時 数	50	70	70	
特 別 活 動 の 授 業 時 数	35	35	35	
総 授 業 時 数	1015	1015	1015	

※改正後数学 1～3 年の授業時数合計は、385。

(この表の授業時数の 1 単位時間は、50 分とする。)

現 行

区 分	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	
各 教 科 の 授 業 時 数	国 語	140	105	105
	社 会	105	105	85
	数 学	105	105	105
	理 科	105	105	80
	音 楽	45	35	35
	美 術	45	35	35
	保 健 体 育	90	90	90
	技 術 ・ 家 庭	70	70	35
	外 国 語	105	105	105
道 徳 の 授 業 時 数	35	35	35	
特 別 活 動 の 授 業 時 数	35	35	35	
選 択 教 科 等 に 充 て る 授 業 時 数	0～30	50～85	105～165	
総 合 的 な 学 習 の 時 間 の 授 業 時 数	70～100	70～105	70～130	
総 授 業 時 数	980	980	980	

※現行数学 1～3 年の授業時数合計は、315。

(この表の授業時数の 1 単位時間は、50 分とする。)

- 基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着のため、発達や学年の段階に応じた反復(スパイラル)による指導を充実。(小・中学校で指導内容を一部重複させるなど)
- 国際的な通用性、内容の系統性の確保や小・中学校の学習の円滑な接続等の観点から、必要な指導内容を充実。「資料の活用」を新設し、統計に関する指導を充実など
- 知識・技能を活用する力を育成し、学ぶことの意義や有用性を実感できるように、既習の数学を基にして数や図形の性質を見いだす活動などの「数学的活動」を指導内容として学習指導要領に規定。

(1) 学習内容の改善・充実

① 内容構成の見直し等

- ◎ 従来の「数と式」, 「図形」, 「数量関係」の3領域構成から、統計や確率を指導する「資料の活用」を新設するとともに、「数量関係」を「関数」に改め、4領域とする。また、新たに(数学的活動)を指導内容として規定。
- ◎ 小・中学校で指導内容を一部重複させること(例:文字式)により、基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着。
- 既習の関連する内容を再度取り上げ、学び直しの機会を設定することにより、基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着。

② 第1学年

- ◎ 数の集合と四則【H元年】、図形の移動(平行移動, 対称移動, 回転移動)【H元年】、投影図【H元年】、球の表面積・体積【H元年】、資料のちらばりと代表値【H元年】、不等式を用いた表現【(H元年)は第2学年で一元一次不等式を指導)など

③ 第3学年

- ◎ 有理数・無理数【H元年】、二次方程式の解の公式【H元年】、相似な図形の面積比・体積比【H元年】、円周角の定理の逆【H元年】、いろいろな事象と関数【H元年】、標本調査【H元年】

(2) 言語力の育成・活用の重視

- ◎ 新設の(数学的活動)において、「既習の数学を基にして、数や図形の性質などを見いだす活動」, 「日常生活や社会で数学を利用する活動」, 「数学的な表現を用いて、根拠を明らかにし筋道を立てて説明し伝え合う活動」などを規定。
- ◎ 各内容の特質に応じ、「具体的な場面で活用すること」, 「説明すること」を新たに規定。

【中学校数学 内容区分・項目の新旧対照】

平成 20 年 3 月 28 日告示より

新規の項目は 枠囲み，学年間で移行される項目は 下線
 (現行項目の配列は，改訂後と比べやすいよう，適宜変更しています。)

	現 行	改訂後
全 学 年	領域 A 数と式 B 図形 C 数量関係	領域 A 数と式 B 図形 C 関数 D 資料の活用
		数学的活動

学年	現 行	改訂後
第 1 学 年	正の数・負の数 <ul style="list-style-type: none"> ・正負の数の必要性和意味 ・正負の数の四則計算 文字を用いた式 <ul style="list-style-type: none"> ・文字を用いることの意義 ・文字式の乗法と除法の表し方 ・一次式の加法と減法の計算 A 数と式	正の数・負の数 <ul style="list-style-type: none"> ・正負の数の必要性和意味 ・正負の数の四則計算 ・正負の数を用いて表したり処理したりすること ・数の集合と四則計算の可能性 (現行高校から) 文字を用いた式 <ul style="list-style-type: none"> ・文字を用いることの必要性和意味 ・文字式の乗法と除法の表し方 ・一次式の加法と減法の計算 ・文字を用いた式に表したり読みとったりすること ・不等式を用いた表現 (現行高校から一部) A 数と式
	一元一次方程式 <ul style="list-style-type: none"> ・方程式及びその解の意味 ・等式の性質と一次方程式の解き方 ・一次方程式を利用すること [用語・記号] 自然数 符号 絶対値 項 係数 <u>$<$ $>$ (新小2へ)</u> \leq \geq	一元一次方程式 <ul style="list-style-type: none"> ・方程式及びその解の意味 ・等式の性質と一次方程式の解き方 ・一次方程式を活用すること ・比例式を解くこと [用語・記号] 自然数 符号 絶対値 項 係数 移項 \leq \geq

学年	現 行		改訂後	
第 1 学 年	B 図 形	平面図形 <ul style="list-style-type: none"> • 基本的な作図の方法とその利用 • <u>線対称, 点対称(新小6へ)</u> 空間図形 <ul style="list-style-type: none"> • 直線や平面の位置関係 • 空間図形の構成と平面上の表現 • 扇形の弧の長さと同面積 • 柱体や錐体の表面積, 体積 [用語・記号] 弧 弦 回転体 π // \perp \angle \triangle	B 図 形	平面図形 <ul style="list-style-type: none"> • 基本的な作図の方法とその活用 • <u>図形の移動(平行移動, 対称移動, 回転移動)</u> 空間図形 <ul style="list-style-type: none"> • 直線や平面の位置関係 • 空間図形の構成と平面上の表現 <u>(投影図)</u> • 扇形の弧の長さと同面積 • 柱体や錐体の表面積, 体積 • <u>球の表面積, 体積(現行高校から)</u> [用語・記号] 弧 弦 回転体 <u>ねじれの位置</u> π // \perp \angle \triangle
	C 数 量 関 係	比例, 反比例 <ul style="list-style-type: none"> • 比例, 反比例の意味 • 座標の意味 • 比例, 反比例の特徴 • 比例, 反比例の見方や考え方の活用 [用語・記号] 変数 変域	C 関 数	比例, 反比例 <ul style="list-style-type: none"> • <u>関数関係の意味(現行2年から)</u> • 比例, 反比例の意味 • 座標の意味 • 比例, 反比例の特徴 • 比例, 反比例を用いること [用語・記号] <u>関数</u> 変数 変域
			D 資 料 の 活 用	<u>資料の散らばりと代表値(現行高校から)</u> <ul style="list-style-type: none"> • <u>ヒストグラムや代表値の必要性と意味</u> • <u>ヒストグラムや代表値を用いること</u> • <u>誤差や近似値, $a \times 10^n$ の形の表現</u> [用語・記号] <u>平均値</u> <u>中央値</u> <u>最頻値</u> <u>相対度数</u> <u>範囲</u> <u>階級</u>
			数 学 的 活 動	<u>ア 既習の数学を基にして, 数や図形の性質などを見いだす活動</u> <u>イ 日常生活で数学を利用する活動</u> <u>ウ 数学的な表現を用いて, 自分なりに説明し伝え合う活動</u>

新規の項目は 枠囲み，学年間で移行される項目は 下線
 (現行項目の配列は，改訂案と比べやすいよう，適宜変更しています。)

学年	現 行	改訂後
第 2 学 年	<p>文字を用いた式の四則計算</p> <ul style="list-style-type: none"> • 整式の加減，単項式の乗除の計算 • 文字式を利用すること <p>A</p> <p>数と式</p> <ul style="list-style-type: none"> • 目的に応じた式の変形 <p>連立二元一次方程式</p> <ul style="list-style-type: none"> • 二元一次方程式とその解の意味 • 連立方程式とその解の意味 • 連立方程式を解くことや利用すること <p>[用語・記号]</p> <p>同類項</p>	<p>文字を用いた式の四則計算</p> <ul style="list-style-type: none"> • 整式の加減，単項式の乗除の計算 • 文字を用いた式で表したり，読み取ったりすること • 目的に応じた式の変形 <p>A</p> <p>数と式</p> <p>連立二元一次方程式</p> <ul style="list-style-type: none"> • 二元一次方程式とその解の意味 • 連立方程式とその解の意味 • 連立方程式を解くことや活用すること <p>[用語・記号]</p> <p>同類項</p>
	<p>平面図形と平行線の性質</p> <ul style="list-style-type: none"> • 平行線と角の性質 • 多角形の角の性質 <p>図形の合同</p> <ul style="list-style-type: none"> • 三角形の合同条件 • 証明の意義と方法 • 三角形や平行四辺形の基本的な性質 • <u>円周角と中心角の関係(新3年へ)</u> <p>[用語・記号]</p> <p>対頂角 内角 外角 定義 証明 ≡</p>	<p>平面図形と平行線の性質</p> <ul style="list-style-type: none"> • 平行線と角の性質 • 多角形の角の性質 <p>図形の合同</p> <ul style="list-style-type: none"> • 平面図形の合同の意味と三角形の合同条件 • 証明の必要性と意味及びその方法 • 三角形や平行四辺形の基本的な性質 • 図形の性質の証明を読んで新たな性質を見いだすこと <p>[用語・記号]</p> <p>対頂角 内角 外角 定義 証明</p> <p>逆 ≡</p>
	<p>C</p> <p>数量関係</p> <p>一次関数</p> <ul style="list-style-type: none"> • 一次関数の関係 • 一次関数の特徴とその利用 • 二元一次方程式と関数 <p>確率</p> <ul style="list-style-type: none"> • 確率の必要性と意味 • 確率の求め方 • <u>場合の数(新小6へ)</u> 	<p>C</p> <p>関数</p> <p>一次関数</p> <ul style="list-style-type: none"> • 一次関数の関係 • 一次関数の特徴 • 二元一次方程式と関数 • 一次関数を用いること <p>[用語・記号]</p> <p>変化の割合 傾き</p> <p>D</p> <p>資料の活用</p> <p>確率</p> <ul style="list-style-type: none"> • 確率の必要性と意味 • 確率の求め方 • 確率を用いること

学年	現 行		改訂後	
第 2 学 年			数 学 的 活 動	<p data-bbox="751 185 1249 256">ア 既習の数学を基にして、数や図形の性質などを見いだし、発展させる活動</p> <p data-bbox="751 262 1249 297">イ 日常生活や社会で数学を利用する活動</p> <p data-bbox="751 303 1249 374">ウ 数学的な表現を用いて、根拠を明らかにし筋道立てて説明し伝え合う活動</p>

新規の項目は 枠囲み，学年間で移行される項目は 下線
 (現行項目の配列は，改訂後と比べやすいよう，適宜変更しています。)

学年	現 行	改訂後
第 3 学 年	<p>平方根</p> <ul style="list-style-type: none"> 平方根の必要性和意味 平方根を含む式の計算 <p>式の展開と因数分解</p> <ul style="list-style-type: none"> 単項式と多項式の乗法と除法の計算 簡単な式の展開や因数分解 <p>二次方程式</p> <ul style="list-style-type: none"> 二次方程式とその解の意味 二次方程式を解くこととその利用 <p>[用語・記号] 根号 素数(新小5へ) 因数 $\sqrt{\quad}$</p>	<p>平方根</p> <ul style="list-style-type: none"> 平方根の必要性和意味 平方根を含む式の計算 <u>平方根を用いること</u> <p>式の展開と因数分解</p> <ul style="list-style-type: none"> 単項式と多項式の乗法と除法の計算 簡単な式の展開や因数分解 <u>文字を用いた式で数量関係をとらえること</u> <p>二次方程式</p> <ul style="list-style-type: none"> 二次方程式とその解の意味 二次方程式を解くこと <u>二次方程式の解の公式</u> (現行高校から) 二次方程式の活用 <p>[用語・記号] 根号 <u>有理数</u> <u>無理数</u> 因数 $\sqrt{\quad}$</p>
	<p>図形の相似</p> <ul style="list-style-type: none"> 図形の相似と三角形の相似条件 図形の基本的な性質 平行線と線分の比 <ul style="list-style-type: none"> 相似の考えを活用すること <p>三平方の定理</p> <ul style="list-style-type: none"> 三平方の定理とその証明 三平方の定理を利用すること <p>[用語・記号] ∞</p>	<p>図形の相似</p> <ul style="list-style-type: none"> 平面図形の相似と三角形の相似条件 図形の基本的な性質 平行線と線分の比 <u>立体の相似，相似な図形の相似比と面積比，体積比</u> (現行高校から) 相似な図形の性質を活用すること <p>B 図形 円の性質</p> <ul style="list-style-type: none"> <u>円周角と中心角の関係(証明)</u> (現行2年から) <u>円周角と中心角の関係の活用</u> <u>円周角の定理の逆</u> (現行高校から) <p>三平方の定理</p> <ul style="list-style-type: none"> 三平方の定理とその証明 三平方の定理を活用すること <p>[用語・記号] ∞</p>

学年	現 行		改訂後	
第 3 学 年	C 数 量 関 係	関数 $y=ax^2$ <ul style="list-style-type: none"> • 関数 $y=ax^2$ の関係 • 関数 $y=ax^2$ の特徴と関数のとる値の変化の割合 	C 関 数	関数 $y=ax^2$ <ul style="list-style-type: none"> • 関数 $y=ax^2$ の関係 • 関数 $y=ax^2$ の特徴 • 関数 $y=ax^2$ を用いること • いろいろな事象と関数 (現行高校から)
			D 資 料 の 活 用	<u>標本調査</u> (現行高校から) <ul style="list-style-type: none"> • <u>標本調査の必要性と意味</u> • <u>標本調査で母集団の傾向をとらえ説明すること</u> 〔用語・記号〕 <u>全数調査</u>
			数 学 的 活 動	<u>ア 既習の数学を基にして、数や図形の性質などを見だし、発展させる活動</u> <u>イ 日常生活や社会で数学を利用する活動</u> <u>ウ 数学的な表現を用いて、根拠を明らかにし筋道立てて説明し伝え合う活動</u>

各学年の内容、内容の取扱いのうち、新規の項目には $\boxed{\text{枠囲み}}$ 、学年間で移行される項目には下線をつけています。
(上記以外の変更には、印をつけていません。)

第 3 節 数 学

第 1 目 標

数学的活動を通して、数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察し表現する能力を高めるとともに、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、それらを活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てる。

第 2 各学年の目標及び内容

〔第 1 学年〕

1 目 標

- (1) 数を正の数と負の数まで拡張し、数の概念についての理解を深める。また、文字を用いることや方程式の必要性と意味を理解するとともに、数量の関係や法則などを一般的にかつ簡潔に表現して処理したり、一元一次方程式を用いたりする能力を培う。
- (2) 平面図形や空間図形についての観察、操作や実験などの活動を通して、図形に対する直観的な見方や考え方を深めるとともに、論理的に考察し表現する能力を培う。
- (3) 具体的な事象を調べることを通して、比例、反比例についての理解を深めるとともに、関数関係を見だし表現し考察する能力を培う。
- (4) 目的に応じて資料を収集して整理し、その資料の傾向を読み取る能力を培う。

2 内 容

A 数と式

- (1) 具体的な場面を通して正の数と負の数について理解し、その四則計算ができるようにするとともに、正の数と負の数を用いて表現し考察することができるようにする。
 - ア 正の数と負の数の必要性と意味を理解すること。
 - イ 小学校で学習した数の四則計算と関連付けて、正の数と負の数の四則計算の意味を理解すること。
 - ウ 正の数と負の数の四則計算をすること。
 - $\boxed{\text{エ 具体的な場面で正の数と負の数を用いて表したり処理したりすること。}}$
- (2) 文字を用いて数量の関係や法則などを式に表現したり式の意味を読み取ったりする能力を培うとともに、文字を用いた式の計算ができるようにする。
 - ア 文字を用いることの必要性と意味を理解すること。
 - イ 文字を用いた式における乗法と除法の表し方を知ること。
 - ウ 簡単な一次式の加法と減法の計算をすること。

エ 数量の関係や法則などを文字を用いた式に表すことができることを理解し、式を用いて表したり読み取ったりすること。

(3) 方程式について理解し、一元一次方程式を用いて考察することができるようにする。

ア 方程式の必要性と意味及び方程式の中の文字や解の意味を理解すること。

イ 等式の性質を基にして、方程式が解けることを知ること。

ウ 簡単な一元一次方程式を解くこと及びそれを具体的な場面で活用すること。

[用語・記号]

自然数 符号 絶対値 項 係数 移項 $\leq \geq$

B 図形

(1) 観察、操作や実験などの活動を通して、見通しをもって作図したり図形の関係について調べたりして平面図形についての理解を深めるとともに、論理的に考察し表現する能力を培う。

ア 角の二等分線、線分の垂直二等分線、垂線などの基本的な作図の方法を理解し、それを具体的な場面で活用すること。

イ 平行移動、対称移動及び回転移動について理解し、二つの図形の関係について調べること。

(2) 観察、操作や実験などの活動を通して、空間図形についての理解を深めるとともに、図形の計量についての能力を伸ばす。

ア 空間における直線や平面の位置関係を知ること。

イ 空間図形を直線や平面図形の運動によって構成されるものととらえたり、空間図形を平面上に表現して平面上の表現から空間図形の性質を読み取ったりすること。

ウ 扇形の弧の長さや面積並びに基本的な柱体、^{すい}錐体及び球の表面積と体積を求めること。

[用語・記号]

弧 弦 回転体 ねじれの位置 $\pi // \perp \angle \triangle$

C 関数

(1) 具体的な事象の中から二つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して、比例、反比例の関係についての理解を深めるとともに、関数関係を見いだし表現し考察する能力を培う。

ア 関数関係の意味を理解すること。

イ 比例、反比例の意味を理解すること。

ウ 座標の意味を理解すること。

エ 比例、反比例を表、式、グラフなどで表し、それらの特徴を理解すること。

オ 比例、反比例を用いて具体的な事象をとらえ説明すること。

[用語・記号]

関数 変数 変域

D 資料の活用

(1) 目的に応じて資料を収集し、コンピュータを用いたりするなどして表やグラフに整理し、代表値や資料の散らばりに着目してその資料の傾向を読み取ることができるようにする。

ア ヒストグラムや代表値の必要性と意味を理解すること。

イ ヒストグラムや代表値を用いて資料の傾向をとらえ説明すること。

〔用語・記号〕

平均値 中央値 最頻値 相対度数 範囲 階級

〔数学的活動〕

(1) 「A数と式」, 「B図形」, 「C関数」及び「D資料の活用」の学習やそれらを相互に関連付けた学習において、次のような数学的活動に取り組む機会を設けるものとする。

ア 既習の数学を基にして、数や図形の性質などを見いだす活動

イ 日常生活で数学を利用する活動

ウ 数学的な表現を用いて、自分なりに説明し伝え合う活動

3 内容の取扱い

(1) 内容の「A数と式」の(1)に関連して、数の集合と四則計算の可能性を取り扱うものとする。

(2) 内容の「A数と式」の(2)のエに関連して、大小関係を不等式を用いて表すことを取り扱うものとする。

(3) 内容の「A数と式」の(3)のウに関連して、簡単な比例式を解くことを取り扱うものとする。

(4) 内容の「B図形」の(1)のアに関連して、円の接線はその接点を通る半径に垂直であることを取り扱うものとする。

(5) 内容の「B図形」の(2)のイについては、見取図、展開図や投影図を取り扱うものとする。

(6) 内容の「D資料の活用」の(1)に関連して、誤差や近似値、 $a \times 10^n$ の形の表現を取り扱うものとする。

〔第2学年〕

1 目標

- (1) 文字を用いた式について、目的に応じて計算したり変形したりする能力を養うとともに、連立二元一次方程式について理解し用いる能力を培う。
- (2) 基本的な平面図形の性質について、観察、操作や実験などの活動を通して理解を深めるとともに、図形の性質の考察における数学的な推論の必要性和意味及びその方法を理解し、論理的に考察し表現する能力を養う。
- (3) 具体的な事象を調べることを通して、一次関数について理解するとともに、関数関係を見いだし表現し考察する能力を養う。
- (4) 不確定な事象を調べることを通して、確率について理解し用いる能力を培う。

2 内容

A 数と式

(1) 具体的な事象の中に数量の関係を見いだし、それを文字を用いて式に表現したり式の意味を読み取ったりする能力を養うとともに、文字を用いた式の四則計算ができるようにする。

ア 簡単な整式の加法、減法及び単項式の乗法、除法の計算をすること。

イ 文字を用いた式で数量及び数量の関係をとらえ説明できることを理解すること。

ウ 目的に応じて、簡単な式を変形すること。

(2) 連立二元一次方程式について理解し、それを用いて考察することができるようにする。

- ア 二元一次方程式とその解の意味を理解すること。
- イ 連立二元一次方程式の必要性と意味及びその解の意味を理解すること。
- ウ 簡単な連立二元一次方程式を解くこと及びそれを具体的な場面で活用すること。

[用語・記号]

同類項

B 図形

- (1) 観察，操作や実験などの活動を通して，基本的な平面図形の性質を見だし，平行線の性質を基にしてそれらを確認することができるようにする。
 - ア 平行線や角の性質を理解し，それに基づいて図形の性質を確認説明すること。
 - イ 平行線の性質や三角形の角についての性質を基にして，多角形の角についての性質を見いだせることを知ること。
- (2) 図形の合同について理解し図形についての見方を深めるとともに，図形の性質を三角形の合同条件などを基にして確かめ，論理的に考察し表現する能力を養う。
 - ア 平面図形の合同の意味及び三角形の合同条件について理解すること。
 - イ 証明の必要性と意味及びその方法について理解すること。
 - ウ 三角形の合同条件などを基にして三角形や平行四辺形の基本的な性質を論理的に確かめたり，

図形の性質の証明を読んで新たな性質を見いだしたりすること。

[用語・記号]

対頂角 内角 外角 定義 証明 逆 ≡

C 関数

- (1) 具体的な事象の中から二つの数量を取り出し，それらの変化や対応を調べることを通して，一次関数について理解するとともに，関数関係を見だし表現し考察する能力を養う。
 - ア 事象の中には一次関数としてとらえられるものがあることを知ること。
 - イ 一次関数について，表，式，グラフを相互に関連付けて理解すること。
 - ウ 二元一次方程式を関数を表す式とみること。
 - エ 一次関数を用いて具体的な事象をとらえ説明すること。

[用語・記号]

変化の割合 傾き

D 資料の活用

- (1) 不確定な事象についての観察や実験などの活動を通して，確率について理解し，それを用いて考察し表現することができるようにする。
 - ア 確率の必要性と意味を理解し，簡単な場合について確率を求めること。
 - イ 確率を用いて不確定な事象をとらえ説明すること。

[数学的活動]

- (1) 「A数と式」，「B図形」，「C関数」及び「D資料の活用」の学習やそれらを相互に関連付けた学習において，次のような数学的活動に取り組む機会を設けるものとする。
 - ア 既習の数学を基にして，数や図形の性質などを見だし，発展させる活動

イ 日常生活や社会で数学を利用する活動

ウ 数学的な表現を用いて、根拠を明らかにし筋道立てて説明し伝え合う活動

3 内容の取扱い

- (1) 内容の「B図形」の(2)のウに関連して、正方形、ひし形、長方形が平行四辺形の特別な形であることを取り扱うものとする。

〔第3学年〕

1 目標

- (1) 数の平方根について理解し、数の概念についての理解を深める。また、目的に応じて計算したり式を変形したりする能力を伸ばすとともに、二次方程式について理解し用いる能力を培う。
- (2) 図形の相似、円周角と中心角の関係や三平方の定理について、観察、操作や実験などの活動を通して理解し、それらを図形の性質の考察や計量に用いる能力を伸ばすとともに、図形について見通しをもって論理的に考察し表現する能力を伸ばす。
- (3) 具体的な事象を調べることを通して、関数 $y=ax^2$ について理解するとともに、関数関係を見だし表現し考察する能力を伸ばす。
- (4) 母集団から標本を取り出し、その傾向を調べることで、母集団の傾向を読み取る能力を培う。

2 内容

A 数と式

- (1) 正の数の平方根について理解し、それを用いて表現し考察することができるようにする。
- ア 数の平方根の必要性和意味を理解すること。
- イ 数の平方根を含む簡単な式の計算をすること。
- ウ 具体的な場面で数の平方根を用いて表したり処理したりすること。
- (2) 文字を用いた簡単な多項式について、式の展開や因数分解ができるようにするとともに、目的に応じて式を変形したりその意味を読み取ったりする能力を伸ばす。
- ア 単項式と多項式の乗法及び多項式を単項式で割る除法の計算をすること。
- イ 簡単な一次式の乗法の計算及び次の公式を用いる簡単な式の展開や因数分解をすること。
- $$(a+b)^2=a^2+2ab+b^2$$
- $$(a-b)^2=a^2-2ab+b^2$$
- $$(a+b)(a-b)=a^2-b^2$$
- $$(x+a)(x+b)=x^2+(a+b)x+ab$$
- ウ 文字を用いた式で数量及び数量の関係をとらえ説明すること。
- (3) 二次方程式について理解し、それを用いて考察することができるようにする。
- ア 二次方程式の必要性和意味及びその解の意味を理解すること。
- イ 因数分解したり平方の形に変形したりして二次方程式を解くこと。
- ウ 解の公式を知り、それを用いて二次方程式を解くこと。
- エ 二次方程式を具体的な場面で活用すること。

[用語・記号]

根号 有理数 無理数 因数 $\sqrt{\quad}$

B 図形

(1) 図形の性質を三角形の相似条件などを基にして確かめ、論理的に考察し表現する能力を伸ばし、相似な図形の性質を用いて考察することができるようにする。

ア 平面図形の相似の意味及び三角形の相似条件について理解すること。

イ 三角形の相似条件などを基にして図形の基本的な性質を論理的に確かめること。

ウ 平行線と線分の比についての性質を見だし、それらを確かめること。

エ 基本的な立体の相似の意味と、相似な図形の相似比と面積比及び体積比の関係について理解すること。

オ 相似な図形の性質を具体的な場面で活用すること。

(2) 観察、操作や実験などの活動を通して、円周角と中心角の関係を見だして理解し、それを用いて考察することができるようにする。

ア 円周角と中心角の関係の意味を理解し、それが証明できることを知ること。

イ 円周角と中心角の関係を具体的な場面で活用すること。

(3) 観察、操作や実験などの活動を通して、三平方の定理を見だして理解し、それを用いて考察することができるようにする。

ア 三平方の定理の意味を理解し、それが証明できることを知ること。

イ 三平方の定理を具体的な場面で活用すること。

[用語・記号]

∞

C 関数

(1) 具体的な事象の中から二つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して、関数 $y=ax^2$ について理解するとともに、関数関係を見だし表現し考察する能力を伸ばす。

ア 事象の中には関数 $y=ax^2$ としてとらえられるものがあることを知ること。

イ 関数 $y=ax^2$ について、表、式、グラフを相互に関連付けて理解すること。

ウ 関数 $y=ax^2$ を用いて具体的な事象をとらえ説明すること。

エ いろいろな事象の中に、関数関係があることを理解すること。

D 資料の活用

(1) コンピュータを用いたりするなどして、母集団から標本を取り出し、標本の傾向を調べることで、母集団の傾向が読み取れることを理解できるようにする。

ア 標本調査の必要性和意味を理解すること。

イ 簡単な場合について標本調査を行い、母集団の傾向をとらえ説明すること。

[用語・記号]

全数調査

〔数学的活動〕

(1) 「A数と式」, 「B図形」, 「C関数」及び「D資料の活用」の学習やそれらを相互に関連付けた学習において、次のような数学的活動に取り組む機会を設けるものとする。

ア 既習の数学を基にして、数や図形の性質などを見だし、発展させる活動

イ 日常生活や社会で数学を利用する活動

ウ 数学的な表現を用いて、根拠を明らかにし筋道立てて説明し伝え合う活動

3 内容の取扱い

- (1) 内容の「A数と式」の(2)などに関連して、自然数を素因数に分解することを取り扱うものとする。
- (2) 内容の「A数と式」の(3)については、実数の解をもつ二次方程式を取り扱うものとする。
- (3) 内容の「A数と式」の(3)のイについては、 $ax^2=b$ (a, b は有理数) の二次方程式及び $x^2+px+q=0$ (p, q は整数) の二次方程式を取り扱うものとする。因数分解して解くことの指導においては、内容の「A数と式」の(2)のイに示した公式を用いることができるものを中心に取り扱うものとする。また、平方の形に変形して解くことの指導においては、 x の係数が偶数であるものを中心に取り扱うものとする。

(4) 内容の「B図形」の(2)に関連して、円周角の定理の逆を取り扱うものとする。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

- 1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。
 - (1) 第2の各学年の目標の達成に支障のない範囲内で、当該学年の内容の一部を軽く取り扱い、それを後の学年で指導することができる。また、学年の目標を逸脱しない範囲内で、後の学年の内容の一部を加えて指導することもできる。
 - (2) 生徒の学習を確実なものにするために、新たな内容を指導する際には、既に指導した関連する内容を意図的に再度取り上げ、学び直しの機会を設定することに配慮するものとする。
 - (3) 第1章総則の第1の2及び第3章道德の第1に示す道德教育の目標に基づき、道德の時間などとの関連を考慮しながら、第3章道德の第2に示す内容について、数学科の特質に応じて適切な指導をすること。
- 2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。
 - (1) 第2の各学年の内容に示す〔用語・記号〕は、当該学年で取り扱う内容の程度や範囲を明確にするために示したものであり、その指導に当たっては、各学年の内容と密接に関連させて取り上げるよう配慮するものとする。
 - (2) 各領域の指導に当たっては、必要に応じ、そろばん、電卓、コンピュータや情報通信ネットワークなどを適切に活用し、学習の効果を高めるよう配慮するものとする。特に、数値計算にかかわる内容の指導や、観察、操作や実験などの活動を通じた指導を行う際にはこのことに配慮するものとする。
- 3 数学的活動の指導に当たっては、次の事項に配慮するものとする。
 - (1) 数学的活動を楽しめるようにするとともに、数学を学習することの意義や数学の必要性などを実感する機会を設けること。

- (2) 自ら課題を見だし、解決するための構想を立て、実践し、その結果を評価・改善する機会を設けること。
 - (3) 数学的活動の過程を振り返り、レポートにまとめ発表することなどを通して、その成果を共有する機会を設けること。
- 4 課題学習とは、生徒の数学的活動への取組を促し思考力、判断力、表現力等の育成を図るため、各領域の内容を総合したり日常の事象や他教科等での学習に関連付けたりするなどして見いだした課題を解決する学習であり、この実施に当たっては各学年で指導計画に適切に位置付けるものとする。

小学校算数科の内容について（改訂案）

（参考資料）

	A 数と計算	B 量と測定
1年	<p>整数の意味と表し方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2位数, <u>簡単な3位数</u>など <p>整数の加・減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1位数の加・減, <u>簡単な2位数の加・減</u> 	<p>量の大きさの比較</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 長さ, <u>面積, 体積</u>の大きさの直接比較 <p><u>時刻の読み方</u>（現行2年から）</p>
2年	<p>整数などの表し方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3位数, 4位数, <u>1万</u>, <u>簡単な分数</u>（$1/2$, $1/4$ など）など <p>整数の加・減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2位数の加・減, <u>簡単な3位数の加・減</u>など <p>整数の乗法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 乘法九九, <u>簡単な2位数の乗法</u>（<u>1位数×2位数</u>）など 	<p>量の単位と測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 長さの単位（mm, cm, m） ・ 体積の単位（ml, dl, l）（現行3年から） <p><u>時間の単位</u>（日, 時, 分）（現行3年から）</p>
3年	<p>整数の表し方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 万の単位, <u>1億</u>など <p>整数の加・減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3位数や<u>4位数</u>の加・減など <p>整数の乗法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2位数や3位数の乗法（<u>3位数×2位数</u>など）など <p>整数の除法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1位数による簡単な除法（商が1位数や<u>2位数</u>）など <p><u>小数</u>（現行4年から）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小数の意味と表し方, 小数（$1/10$の位）の加・減 <p><u>分数</u>（現行4年から）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 分数の意味と表し方, 簡単な分数（同分母の真分数）の加・減 <p><u>そろばん</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 数の表し方と加・減 	<p>いろいろな単位と測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 長さ（km）や重さの単位（g, kg, t） <p>計器による測定</p> <p><u>時間の単位</u>（秒）, <u>時刻や時間の計算</u></p>
4年	<p>整数の表し方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 億, 兆の単位など <p><u>およその数</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 概数, 四捨五入, <u>四則計算の見積り</u>（現行5年, 6年から） <p>整数の除法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2位数などによる除法など <p><u>整数の四則計算の定着と活用</u></p> <p>小数の計算</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小数の加・減（$1/10$, <u>$1/100$</u>の位など） ・ 小数の乗・除（<u>小数×整数</u>, <u>小数÷整数</u>）（現行5年から） <p>分数の計算</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 同分母分数（真分数, <u>仮分数</u>）の加・減など（現行5年から） <p><u>そろばん</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 加・減 	<p><u>面積</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 面積の単位（cm^2, m^2, km^2, <u>a</u>, <u>ha</u>）と測定 ・ 正方形, 長方形の面積の求め方 <p><u>角の大きさの単位</u>（度$^{\circ}$）</p>
5年	<p>整数の性質</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 奇数と偶数, 約数と倍数（現行6年から）, <u>素数</u> <p>整数と小数の記数法</p> <p>小数の計算</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小数の乗・除（$1/10$, <u>$1/100$</u>の位など） <p>分数の計算</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 異分母分数（真分数, <u>仮分数</u>）の加・減など（現行6年から） ・ 分数の乗・除（<u>分数×整数</u>, <u>分数÷整数</u>） 	<p><u>面積</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 三角形, 平行四辺形の面積の求め方 <p><u>ひし形, 台形の面積の求め方</u></p> <p><u>体積</u>（現行6年から）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体積の単位（cm^3, m^3）と測定 ・ 立方体, 直方体の体積の求め方 <p><u>測定値の平均</u></p> <p><u>単位量当たりの大きさ</u>（人口密度など）（現行6年から）</p>
6年	<p>分数の計算</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 分数の乗・除（<u>分数・小数の混合計算</u>など） <p><u>小数や分数の四則計算の定着と活用</u></p>	<p>概形</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ およその面積など <p><u>面積</u>（現行5年から）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 円の面積の求め方 <p><u>体積</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 角柱, 円柱の体積の求め方（現行中1から） <p><u>速さ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 速さの意味及び表し方, 速さの求め方 <p><u>メートル法の単位の仕組み</u></p>

C 図形	D 数量関係	算数的活動
<p>図形</p> <ul style="list-style-type: none"> 身の回りにあるものの形 (平面図形、立体図形) の観察や構成 	<p>式による表現</p> <ul style="list-style-type: none"> 加法や減法の場面を式に表す (現行「A数と計算」から) <p>絵や図を用いた数量の表現</p>	<p>ア 具体物を数える活動</p> <p>イ 計算の仕方を説明する活動</p> <p>ウ 量の大きさを比べる活動</p> <p>エ 形を作る活動</p> <p>オ 場面を式に表す活動</p>
<p>図形</p> <ul style="list-style-type: none"> 三角形、四角形 正方形、長方形、直角三角形 (現行 3 年から) 箱の形 (現行 3 年から) 	<p>式による表現</p> <ul style="list-style-type: none"> 加法と減法の相互関係 (現行「A数と計算」から) 乗法の場面を式に表す (現行「A数と計算」から) <p>簡単な表やグラフ (現行「A数と計算」から)</p>	<p>ア 整数が使われる場面を見付ける活動</p> <p>イ 乗法九九表からきまりを見付ける活動</p> <p>ウ 量の大きさの見当を付ける活動</p> <p>エ 長方形などを作る活動</p> <p>オ 式や図に表し説明する活動</p>
<p>図形</p> <ul style="list-style-type: none"> 二等辺三角形、正三角形 (現行 4 年から) 角 (現行 4 年から) 円、球 (現行 4 年から) 	<p>式による表現</p> <ul style="list-style-type: none"> 除法の場面を式に表す (現行「A数と計算」から) <p>式と図の関連付け、□などを用いた式など</p> <p>表や棒グラフ</p>	<p>ア 計算の仕方を説明する活動</p> <p>イ 小数や分数の大きさを比べる活動</p> <p>ウ 単位の関係を調べる活動</p> <p>エ 正三角形などを作図する活動</p> <p>オ 資料を表を用いて表す活動</p>
<p>図形</p> <ul style="list-style-type: none"> 直線の平行や垂直の関係 (現行 5 年から) 平行四辺形、ひし形、台形 (現行 5 年から) 立方体、直方体 (現行 6 年から) ものの位置の表し方 (平面や空間の位置の表し方) 	<p>伴って変わる二つの数量の関係</p> <ul style="list-style-type: none"> 数量の変化の様子を折れ線グラフにして関係を調べる <p>式による表現</p> <ul style="list-style-type: none"> 四則混合の式、()を用いた式、公式 □、△などを用いた式 <p>四則計算の性質 (現行 5 年から)</p> <p>資料の分類整理</p> <ul style="list-style-type: none"> 二次元の表、折れ線グラフ 	<p>ア 計算の見積りをし判断する活動</p> <p>イ 面積の求め方を説明する活動</p> <p>ウ 面積を実測する活動</p> <p>エ ひし形などを敷き詰める活動</p> <p>オ 身の回りの数量の関係を調べる活動</p>
<p>図形</p> <ul style="list-style-type: none"> 多角形 (正多角形を含む) 図形の合同 (現行中 1 から一部) 図形の性質 円周率 角柱、円柱 (現行 6 年から) 	<p>簡単な比例の関係</p> <p>数量の関係の見方や調べ方</p> <ul style="list-style-type: none"> 簡単な式で表されている二つの数量の関係を調べる <p>百分率</p> <p>円グラフや帯グラフ</p>	<p>ア 計算の仕方を説明する活動</p> <p>イ 面積の求め方を説明する活動</p> <p>ウ 合同な図形をかく活動</p> <p>エ 図形の性質を説明する活動</p> <p>オ 目的に応じて表やグラフを選び活用する活動</p>
<p>図形</p> <ul style="list-style-type: none"> 拡大図と縮図 (現行中 3 から) 対称な図形 (線対称、点対称) (現行中 1 から) 	<p>比</p> <p>比例と反比例 (現行中 1 から一部)</p> <p>文字を用いた式 (a, x など) (現行中 1 から一部)</p> <p>資料の調べ方</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料の平均 度数分布 <p>起こり得る場合の数 (現行中 2 から)</p>	<p>ア 計算の仕方を説明する活動</p> <p>イ 単位の関係を調べる活動</p> <p>ウ 縮図などを見付ける活動</p> <p>エ 比例の関係をもとに問題を解決する活動</p>

- 知識・技能を活用して課題を解決するための思考力、判断力、表現力等の育成、言語活動の充実、学習習慣の確立等を規定。
- 教育基本法改正等を踏まえ、伝統や文化の継承・発展、公共の精神の尊重を道徳教育の目標に追加。
- 中学校の道徳教育では、職場体験活動等を通じ、自他の生命の尊重、規律ある生活、自己の将来、法やきまりの意義の理解、社会の形成への参画、国際社会に生きる日本人としての自覚を重視することを規定。
- 体力の向上に加え、安全に関する指導や食育を規定。
- 学校教育の一環として生徒が自発的に取り組む部活動の意義や留意点を規定。

① 教育課程編成の一般方針

- 教育基本法、学校教育法等に従い、教育課程を編成することを明確化。
- 知識・技能を活用して課題を解決するための思考力、判断力、表現力等の育成、言語活動の充実、学習習慣の確立等を規定。
- 道徳教育の目標に「伝統や文化」の継承・発展、「公共の精神」の尊重を追加。
- 中学校の道徳教育では、職場体験活動等を充実し、自他の生命の尊重、規律ある生活、自己の将来、法やきまりの意義の理解、社会の形成への参画、国際社会に生きる日本人としての自覚を重視する旨規定。
- 体育・健康に関する指導は、生徒の発達の段階を考慮すべき旨を規定。
- 安全に関する指導や食育について規定。

② 授業時数等の取扱い

- 朝の 10 分間に行われるドリル学習等も授業時数に算入できる旨を規定。

③ 指導計画作成上の配慮事項

- 生徒が学習の見通しを立てたり、振り返ったりする活動を計画的に取り入れることを規定。
- 障害のある生徒等について、特別支援学校等の助言・援助を活用し、指導についての計画の作成等により障害の状態等に応じた指導内容等の一層の工夫を図るべき旨を規定。
- コンピュータの積極的な活用や情報モラルの定着など情報教育の充実を規定。
- 生徒の責任感や連帯感等をはぐくむ部活動について、学校教育の一環として教育課程との関連が図られるよう留意すべき旨を規定。

※ 学習指導要領に定める内容はすべての生徒に指導するものであって、各学校においてこれに加えて指導することができる旨の規定を引き続き置くことを踏まえ、各教科における「・・は扱わないものとする」といった歯止め規定は一部を除き削除・改正。

第 1 章 総 則

第 1 教育課程編成の一般方針

1 各学校においては、教育基本法及び学校教育法その他の法令並びにこの章以下に示すところに従い、生徒の人間として調和のとれた育成を目指し、地域や学校の実態及び生徒の心身の発達の段階や特性等を十分考慮して、適切な教育課程を編成するものとし、これらに掲げる目標を達成するよう教育を行うものとする。

学校の教育活動を進めるに当たっては、各学校において、生徒に生きる力をはぐくむことを目指し、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。その際、生徒の発達の段階を考慮して、生徒の言語活動を充実するとともに、家庭との連携を図りながら、生徒の学習習慣が確立するよう配慮しなければならない。

2 学校における道徳教育は、道徳の時間を要^{かなめ}として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳の時間はもとより、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、生徒の発達の段階を考慮して、適切な指導を行わなければならない。

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心を持ち、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、公共の精神を尊び、民主的な社会及び国家の発展に努め、他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し未来^{ひら}を拓く主体性のある日本人を育成するため、その基盤としての道徳性を養うことを目標とする。

道徳教育を進めるに当たっては、教師と生徒及び生徒相互の人間関係を深めるとともに、生徒が道徳的価値に基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、家庭や地域社会との連携を図りながら、職場体験活動やボランティア活動、自然体験活動などの豊かな体験を通して生徒の内面に根ざした道徳性の育成が図られるよう配慮しなければならない。その際、特に生徒が自他の生命を尊重し、規律ある生活ができ、自分の将来を考え、法やきまりの意義の理解を深め、主体的に社会の形成に参画し、国際社会に生きる日本人としての自覚を身に付けるようにすることなどに配慮しなければならない。

3 学校における体育・健康に関する指導は、生徒の発達の段階を考慮して、学校の教育活動全体を通じて適切に行うものとする。特に、学校における食育の推進並びに体力の向上に関する指導、安全に関する指導及び心身の健康の保持増進に関する指導については、保健体育科の時間はもとより、技術・家庭科、特別活動などにおいてもそれぞれの特質に応じて適切に行うよう努めることとする。また、それらの指導を通して、家庭や地域社会との連携を図りながら、日常生活において適切な体育・健康に関する活動の実践を促し、生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎が培われるよう配慮しなければならない。

第2 内容等の取扱いに関する共通的事項

- 1 第2章以下に示す各教科、道徳及び特別活動の内容に関する事項は、特に示す場合を除き、いずれの学校においても取り扱わなければならない。
- 2 学校において特に必要がある場合には、第2章以下に示していない内容を加えて指導することができる。また、第2章以下に示す内容の取扱いのうち内容の範囲や程度等を示す事項は、すべての生徒に対して指導するものとする内容の範囲や程度等を示したものであり、学校において特に必要がある場合には、この事項にかかわらず指導することができる。ただし、これらの場合には、第2章以下に示す各教科、道徳及び特別活動並びに各学年、各分野又は各言語の目標や内容の趣旨を逸脱したり、生徒の負担過重となったりすることのないようにしなければならない。
- 3 第2章以下に示す各教科、道徳及び特別活動並びに各学年、各分野又は各言語の内容に掲げる事項の順序は、特に示す場合を除き、指導の順序を示すものではないので、学校においては、その取扱いについて適切な工夫を加えるものとする。
- 4 学校において2以上の学年の生徒で編制する学級について特に必要がある場合には、各教科の目標の達成に支障のない範囲内で、各教科の目標及び内容について学年別の順序によらないことができる。
- 5 各学校においては、選択教科を開設し、生徒に履修させることができる。その場合にあっては、地域や学校、生徒の実態を考慮し、すべての生徒に指導すべき内容との関連を図りつつ、選択教科の授業時数及び内容を適切に定め選択教科の指導計画を作成するものとする。
- 6 選択教科の内容については、課題学習、補充的な学習や発展的な学習など、生徒の特性等に応じた多様な学習活動が行えるよう各学校において適切に定めるものとする。その際、生徒の負担過重となることのないようにしなければならない。
- 7 各学校においては、第2章に示す各教科を選択教科として設けることができるほか、地域や学校、生徒の実態を考慮して、特に必要がある場合には、その他特に必要な教科を選択教科として設けることができる。その他特に必要な教科の名称、目標、内容などについては、各学校が適切に定めるものとする。

第3 授業時数等の取扱い

- 1 各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動（以下「各教科等」という。ただし、1及び3において、特別活動については学級活動（学校給食に係るものを除く。）に限る。）の授業は、年間35週以上にわたって行うよう計画し、週当たりの授業時数が生徒の負担過重にならないようにするものとする。ただし、各教科等（特別活動を除く。）や学習活動の特質に応じ効果的な場合には、夏季、冬季、学年末等の休業日の期間に授業日を設定する場合を含め、これらの授業を特定の期間に行うことができる。なお、給食、休憩などの時間については、学校において工夫を加え、適切に定めるものとする。
- 2 特別活動の授業のうち、生徒会活動及び学校行事については、それらの内容に応じ、年間、学期ごと、月ごとなどに適切な授業時数を充てるものとする。
- 3 各教科等のそれぞれの授業の1単位時間は、各学校において、各教科等の年間授業時数を確保しつつ、生徒の発達段階及び各教科等や学習活動の特質を考慮して適切に定めるものとする。なお、10分間程度の短い時間を単位として特定の教科の指導を行う場合において、当該教科を担当する教師がその指導内容の決定や指導の成果の把握と活用等を責任をもって行う体制が整備されているときは、その時間を当該教科の年間授業時数に含めることができる。

- 4 各学校においては、地域や学校及び生徒の実態、各教科等や学習活動の特質等に応じて、創意工夫を生かし時間割を弾力的に編成することができる。
- 5 総合的な学習の時間における学習活動により、特別活動の学校行事に掲げる各行事の実施と同様の成果が期待できる場合においては、総合的な学習の時間における学習活動をもって相当する特別活動の学校行事に掲げる各行事の実施に替えることができる。

第4 指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項

- 1 各学校においては、次の事項に配慮しながら、学校の創意工夫を生かし、全体として、調和のとれた具体的な指導計画を作成するものとする。
 - (1) 各教科等及び各学年相互間の関連を図り、系統的、発展的な指導ができるようにすること。
 - (2) 各教科の各学年、各分野又は各言語の指導内容については、そのまとめ方や重点の置き方に適切な工夫を加えるなど、効果的な指導ができるようにすること。
- 2 以上のほか、次の事項に配慮するものとする。
 - (1) 各教科等の指導に当たっては、生徒の思考力、判断力、表現力等をはぐくむ観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、生徒の言語活動を充実すること。
 - (2) 各教科等の指導に当たっては、体験的な学習や基礎的・基本的な知識及び技能を活用した問題解決的な学習を重視するとともに、生徒の興味・関心を生かし、自主的、自発的な学習が促されるよう工夫すること。
 - (3) 教師と生徒の信頼関係及び生徒相互の好ましい人間関係を育てるとともに生徒理解を深め、生徒が自主的に判断、行動し積極的に自己を生かしていくことができるよう、生徒指導の充実を図ること。
 - (4) 生徒が自らの生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、計画的、組織的な進路指導を行うこと。
 - (5) 生徒が学校や学級での生活によりよく適応するとともに、現在及び将来の生き方を考え行動する態度や能力を育成することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、ガイダンスの機能の充実を図ること。
 - (6) 各教科等の指導に当たっては、生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるようにすること。
 - (7) 各教科等の指導に当たっては、生徒が学習内容を確実に身に付けることができるよう、学校や生徒の実態に応じ、個別指導やグループ別指導、繰り返し指導、学習内容の習熟の程度に応じた指導、生徒の興味・関心等に応じた課題学習、補足的な学習や発展的な学習などの学習活動を取り入れた指導、教師間の協力的な指導など指導方法や指導体制を工夫改善し、個に応じた指導の充実を図ること。
 - (8) 障害のある生徒などについては、特別支援学校等の助言又は援助を活用しつつ、例えば指導についての計画又は家庭や医療、福祉等の業務を行う関係機関と連携した支援のための計画を個別に作成することなどにより、個々の生徒の障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。特に、特別支援学級又は通級による指導については、教師間の連携に努め、効果的な指導を行うこと。

- (9) 海外から帰国した生徒などについては、学校生活への適応を図るとともに、外国における生活経験を生かすなどの適切な指導を行うこと。
- (10) 各教科等の指導に当たっては、生徒が情報モラルを身に付け、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を適切かつ主体的、積極的に活用できるようにするための学習活動を充実するとともに、これらの情報手段に加え視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図ること。
- (11) 学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、生徒の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実すること。
- (12) 生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価するとともに、指導の過程や成果を評価し、指導の改善を行い学習意欲の向上に生かすようにすること。
- (13) 生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動については、スポーツや文化及び科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等に資するものであり、学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意すること。その際、地域や学校の実態に応じ、地域の人々の協力、社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携などの運営上の工夫を行うようにすること。
- (14) 学校がその目的を達成するため、地域や学校の実態等に応じ、家庭や地域の人々の協力を得るなど家庭や地域社会との連携を深めること。また、中学校間や小学校、高等学校及び特別支援学校などとの間の連携や交流を図るとともに、障害のある幼児児童生徒との交流及び共同学習や高齢者などとの交流の機会を設けること。

- 総合的な学習の時間においては、教科の枠を超えた横断的・総合的な学習，探究的な学習を行うものであることをより明確化。
- 学校種間の重複を避け、発達段階に応じた取組を促すため、小学校で地域の人々の暮らし，伝統と文化についての学習活動，中学校で職業や自己の将来に関する学習活動を例示として追加。
- 総合的な学習の時間の教育課程における位置付けを明確化し，その指導を充実。（総則から取り出し，新たに章立て）

(1) 学習内容の改善・充実

① 構成の見直し

総則から取り出し，新たに章立てする。

② 小・中学校共通

☆ 目標に，探究的な学習を明示

- 各学校は社会や日常生活とのかかわりを重視して目標及び内容を設定
- 育てようとする資質や能力及び態度についての，視点を例示

③ 小学校

- 地域の人々の暮らし，伝統と文化についての学習活動を新たに例示

④ 中学校

- 職業や自己の将来に関する学習活動を新たに例示

(2) 言語力の育成・活用の重視

- 他者と協同して問題を解決する学習活動，言語により分析し，まとめたり表現したりする学習活動を新たに規定

<< MEMO >>

A series of horizontal dashed lines for writing.



明日の世代に
啓林館

本社	〒543-0052	大阪市天王寺区大道4丁目3-25	TEL.06-6779-1531
札幌支社	〒003-0005	札幌市白石区東札幌5条2丁目6-1	TEL.011-842-8595
東京支社	〒113-0023	東京都文京区向丘2丁目3-10	TEL.03-3814-2151
東海支社	〒461-0004	名古屋市東区葵1丁目4-34 双栄ビル2F	TEL.052-935-2585
広島支社	〒732-0052	広島市東区光町1丁目7-11 広島CDビル5F	TEL.082-261-7246
九州支社	〒810-0022	福岡市中央区薬院1丁目5-6 ハイヒルズビル5F	TEL.092-725-6677